

平成30年度 第5回小平市公民館運営審議会 会議要録

- 1 開催日時 平成30年12月18日(火) 10:00~12:00
- 2 開催場所 小平市立花小金井南公民館 ホール
- 3 出席者 小平市公民館運営審議会委員 11名
事務局 中央公民館長、館長補佐兼事業担当係長、管理担当係長、
分館担当係長 10名
- 4 傍聴者 なし
- 5 配布資料 (1) 平成30年度 小平市公民館定期講座実施状況表・・・資料1
(2) 平成30年度 小平市公民館まつり等開催報告・・・資料2
(3) 平成30年度 東京都公民館連絡協議会 職員部会 報告・・・資料3
(4) 平成30年度 東京都公民館連絡協議会 委員部会 報告・・・資料4
(5) 全国公民館研究集会報告書・・・資料5
(6) 小平市公共施設マネジメントニュース・・・資料6
(7) 平成30年度第4回小平市公民館運営審議会 会議要録・・・資料7
- 6 次第 (1) 館長報告
(2) 平成30年度 小平市公民館定期講座実施状況について
(3) 公民館まつり等開催報告について
(4) 東京都公民館連絡協議会 職員部会・委員部会報告について
(5) 自主研修会、全国公民館研究集会について
(6) その他

会議の概要

1 館長報告

- (1) 決算特別委員会における審査内容について

①平成29年度決算の概要について

【歳入】 3,524,813円(前年度比179,030円の減)

主なものとして、施設使用料、コピー機・印刷機使用料がある。

【歳出】 公民館費 399,103,381 円（前年度比 15,763,040 円の減）

主なものとして、嘱託職員等の報酬、講師謝礼、施設管理委託等、備品購入費がある。

②決算特別委員会について

「公民館主催講座の応募者と受講者数の開きがある理由や、抽選により定員から落選した方への対応について」、「公民館トイレの洋式化について」、「なかまちテラスのアンケート実施について」などの質問があった。

(2) 平成30年12月市議会定例会における一般質問について

「地域センターの予約にも公共予約システムを導入することについて」（浅倉 成樹議員）

・関連として、公民館が公共予約システムを導入した際の状況についての確認があった。

(3) 中央公民館等の更新及び小川西町公民館の機能移転に伴う進捗状況について(情報提供)

中央公民館を含めた市役所周辺エリアの老朽化した、福祉会館・健康福祉事務センターと、小川駅西口再開発事業で建設する建物の公共スペースへ機能移転する小川西町公民館が入っている西部市民センター・元気村おがわ東について、それぞれ並行して同時期に建設することから一体的に検討を進めている。

6月から市民意見交換会を6回開催し、現在進めている中央・小川デザインプロジェクトとして、グループワークによる市民参加の場（ワークショップ形式のデザインカフェ）を中央と小川エリアでそれぞれ来年3月まで6回ずつ開催する。このほか利用団体・利用者へのヒアリング、駅頭アンケート、学校への出前授業など、様々な方法で市民の意見を聞く機会を設けていく。

来年10月には、これらの市民参加などを経て、新しい公共施設に関する基本計画を策定し、設計段階に入ることになる。計画や設計が固まってしまうと、アイデアや意見が反映し難くなる状況となる。そこで、今回、小平市としても、かなり早い段階から市民の意見を聞く場を設けている。これらの市民参加の場に公民館運営審議会委員も参加し、柔軟な発想で様々なアイデアやご意見を提案していただき、多くの市民とともに次世代に向けた公共施設、公民館を作っていきたいと考えている。

(4) なかまちテラスのイルミネーションについて

今年度で4回目となるが、職業能力開発総合大学校の多大なる協力を得て、なかまちテラスの外壁にイルミネーションの飾りつけをした。

LED電球の取り付け作業では、地域の子どもたちや、なかまちテラスリンクスのメンバーなど、たくさんの方々にも協力いただき、市民と学生との多世代交流の場にもなった。

点灯式は11月10日に行われ、平成31年2月末日まで午後5時から10時まで点灯している。

なお、今年度の文字は「平（たいら）」で、総合能力開発総合大学校の「成（なり）」と合わせて、平成最後の冬を「平成」の光の文字で華やかに盛り上げている。

なお、職業能力開発総合大学校の点灯は、今月25日までとなっている。

2 平成30年度小平市公民館定期講座実施状況について

資料1のうち、新しい取り組みについて、事務局より説明した。

- ・学校連携事業（小川西町公民館、花小金井南公民館）
- ・地域支援講座「みんなが楽しめるボッチャで仲間づくり」（中央公民館）

（質疑応答）

委員 中央公民館の地域支援講座「みんなが楽しめるボッチャで仲間づくり」は、受講者が31名、修了者数が22名となっている。修了者の定義を教えてください。

事務局 半分以上の出席で修了となる。途中からの参加者もいたので若干少なくなった。

委員 小川西町公民館のジュニア講座「モンゴルの音楽と文化」、花小金井南公民館の文化・教養講座「スロヴァキア共和国を学ぼう」「ニュージーランドを学ぼう」について、その後何かつながりのようなものはできたのか。

分館長 「スロヴァキア共和国を学ぼう」について、講座の終了後、大使館の職員の方から「夏に大使館でイベントがあるので、良かったら遊びに来てください」との声掛けがあった。その後の確認はしてないが、大使館へ行った生徒もいると思う。

会長 小平第五小学校で開催された「スロヴァキア共和国を学ぼう」に参加した。生徒が事前学習をしていると感じ、いい講座だったと思う。

委員 参考までに、大使館に講師をお願いする方法を教えてください。

分館長 大使館へのアプローチは、まず電話、その後企画書をメールで送付し、日程調整や講座内容の調整、合わせて小学校との調整をしたうえで学校支援コーディネーターと一緒に大使館を訪問し、講座の実施に至っている。

委員 意欲的に取り組んでいることは、いいことだと思う。

3 公民館まつり等開催報告について

事務局より資料2について説明した。

(質疑応答)

会 長 感想でも構わないので、各委員からお願いしたい。

委 員 鈴木公民館まつりの「すずき花カフェ」と「イタリアオペラを楽しむひととき」について、「すずき花カフェ」は、とても秋らしい工夫をされていた。なごやかで楽しそうに活動をしていて、とてもいいサークルだと思った。「イタリアオペラを楽しむひととき」は、地域のサークルが演奏するのかと思っていたが藤原歌劇団だったので、びっくりした。このような人材の確保やアプローチの仕方はどうしているのか。また、地域支援講座「ソウルフードで国際交流 フランスのお菓子作り」に参加したが、鈴木公民館は中国・韓国、オーストラリア、フランスと多くの国と交流をしていて人材が豊富でいいと思う。このような外国人講師へのアプローチの仕方を教えてほしい。

分館長 「イタリアオペラを楽しむひととき」は、近くにオペラ歌手の方が在住していたため、地域の方に声をかけてもらった。地域支援講座「ソウルフードで国際交流」については、過去に八小の保護者をしていた方で、事業企画委員から紹介してもらった。

会 長 地域と緊密につながっているということだと思う。「すずき花カフェ」は調理室で2日間350人の方にご利用いただいた。まつりには、居場所があるとよいと実感した。

委 員 「中央公民館サークルフェア」の展示について、案内する人がいないものというものがあつた。コミュニケーションを図るという意味で、展示しているサークルから最低1人か交替制で配置し、自分たちの活動を見に来た人に説明して会話を楽しむ、ということができなかったか。

事務局 サークルフェア実行委員会や全体会の中で、できるだけ展示スペースに人を配置し、質問があれば対応してもらうようお願いしている。しかし、参加団体の門戸を広げているため、展示スペースに人員配置ができないサークルの参加を断ることはできない状況がある。

委 員 また、展示方法の工夫として、課題別やテーマ別にならないか。

事務局 配慮はしているが、掲示スペースが限られているため、厳しい状況である。

- 委員 「中央公民館サークルフェア」に参加していたが、他の団体を見る余裕がなかった。鈴木公民館まつりの初日に見学に行ったが、朝が早かったためか閑散としていた。作品展示は、素晴らしくレベルが高いと感心した。特に放課後子ども教室の生け花が素晴らしかった。
- 委員 子どもと一緒に行くので、子ども目線で公民館まつりを楽しもうと思っている。今回、小川公民館と小川西町公民館まつりを見学した。小川西町公民館まつりについて、以前は子どもや保護者向けのイベントがなかったが、今回は土曜子ども広場友・遊のイベントがあり、子どもも楽しめた。模擬店の内容も以前より充実していたと思う。小川公民館は武蔵野美術大学と白梅学園大学との協力が大きいと思った。子どもの遊べる部屋が1部屋あるのはいいと思う。模擬店では、スライムが子どもにとっても人気があった。
- 委員 展示作品に人が付く方がいいという話があったが、同感である。公民館として、人が付いて、人と人のコミュニケーションを取るの重要だと思う。花小金井北公民館について、告知方法をもっと広域にした方がいいと思った。東京街道や青梅街道までのぼり旗を立てて、まつりを開催しているのが分かるようにする、自治会にチラシを入れる、駅前商店会の店にポスターを貼る、などの告知をしたらいいのではないか。鈴木公民館について、正面に閑上地区の展示があった。小平は防災については、あまり災害が少ない気もするが、ビデオ上映をしたり、興味深かった。また、和室のある公民館でお茶席を設けていたが、正座ができないので覗きだけだった。野点のようにロビーなどで、お茶席を設けたら華やかになると思った。
- 委員 「中央公民館サークルフェア」は、人が少なかったと感じた。人がいても入りにくい。もともとの趣旨はサークル活動していることをPRすることや、サークル体験をしてもらうことだと思う。折角の機会なので参加した団体は、もっと積極的に発信した方がいい。
- 委員 公民館の中はどこもごたごたしているが、おまつりはどこも盛大にやっていて非常に良かったという印象を受けた。鈴木公民館ではスタッフが半被を着て大勢いた。とても協力的な感じだった。公民館個々の問題について、取り上げてもいいと思う。まつりそのものは非常に良くても、これを継続していくにはどうしたらいいか。スタッフの高齢化や担い手が続か

ないという話を聞いているので、継続するための討論をしてもいいのではないかと
思った。

会 長 今年の秋の公民館まつりはどこも天気恵まれて、各分館は地域を活かしたまつりだ
ったのではないと思う。花小金井北公民館の場所が分かりにくいと、自分も同じと
ころで迷ったことがある。まつりのPRの仕方については、各分館の利用者懇談会・
連絡会・友の会などで工夫し、PRの仕方によってもっと集客ができると思っている。
なお、お茶席については、椅子を用意してある館もある。

館 長 小川西町公民館の茶道体験では、講座からサークル化した方達が、来館者の皆様に
学んだことを還元しようということでまつりに参加してもらった。本式の茶席と違い
椅子も用意され、アットホームな感じで、2人ペアで相手が点てたお茶を互いにいた
だくという体験ができた。参加型のコーナーだったので、来館者は和やかで楽しく参
加することができた。

委 員 まつりでは、分館長始めスタッフの人達が意欲的に明るく前向きにやっていた。小平
市では原発被害のことが他人事のようで、関心があまり無いように感じている。鈴木
公民館まつりでの被災者支援の展示を他館にも巡回すればいいのではないかと感じ
た。
公民館まつりで、式典のある、なしの差は何か。

館 長 まつりは全館で開催しているが、式典を行うかどうかは館によって異なる。まつりは
各館の利用者懇談会や友の会等と公民館の共催で行っているため、どのようなスタ
イルでやっていくかを話し合っている。式典についてもその中で決めている。上水南公
民館については、開館周年事業ということで今年度は式典を実施した。

委 員 公民館まつりの他に小平市公民館九館会まつりがあるが、小平市に公民館が中央公民
館を含めて11館ある中で、9館が公民館九館会に入って2館が入っていないという
のは違和感を感じるが、その辺のことはどうなのか。

事 務 局 公民館九館会の中でも、組織の体制を見直していく考えのもと、今年7月から検討を
進めた。その結果、12月14日臨時総会を開催し、会則改正により、全館が加入で
きる体制に見直すとともに、名称を公民館九館会から利用者懇談会等連絡協議会（以
下「連絡協議会」）に変更することとなった。

会 長 分館の九館が加入して、名称を公民館九館会としたが、鈴木公民館の退会申し出をき

っかけに、運営委員会で協議した。全館が加入して小平市の公民館が全体で1つにまとまり、そして横のつながりを大事にしていこうということで、まず規約の改正をした。これから鈴木公民館にも花小金井北公民館にも加入してもらい、全館が一緒になって中央公民館と共催で公民館まつりを開催していこうという形に整ってきたところである。

館 長 中央公民館で2月下旬から3月にかけて開催するまつりの名称が「小平市公民館九館会まつり」となっているが、公民館九館会という名称は公民館九館会に入っていない団体は参加できない、閉鎖的とのイメージがあるので広く参加を募るために名称を変更してはどうかとの市民からの声が届いている。今年度については現行の名称で開催するが、来年度については見直しに向けて、連絡協議会と協議していく予定である。

委 員 模擬店の食品アレルギーの表示をしてほしい。

委 員 各中学校とも地域との連携ということで、積極的にボランティアなどに参加している。公民館まつりは、時期的に小学校独自のまつりや青少対のまつりと日程が重なる。更に中学校の場合、10月は合唱コンクールがあり、コンクールの翌日にまつりだと生徒に負担がかかる。このような状況で、日程調整がなかなかつかないのではないかと思うが、声を掛けてもらい、日程が合えば、どの中学校も積極的な参加を試みると思う。

4. 東京都公民館連絡協議会職員部会・委員部会報告について

事務局より資料3、委員より資料4について説明した。

5. 自主研修会、全国公民館研究集会について

研修会参加者より資料5について説明した。

(感想)

委 員 全国公民館研究集会に参加させてもらっておもしろかった。特に感じたのは、これからは、生産人口と税収の減少、認知症患者の増加についてである。国が考えているのは元気な高齢者の活用であり、改めて公民館の役割を感じたが、公民館がどこまでできるかを明確に考える必要があると思う。

委 員 シンポジウムの中で北海道の高校生との対話の中で、女子高生が講師の池上彰氏に「公民館は必要なのか」と質問したのが印象的だった。今の高校生にとって、公民館は身近でないが、年を経ていく中で公民館に戻ってくるのではないかと思っている。

その時のためにも、公民館を継続して地元の中で必要な存在であるようにしていくことが、今、公民館を利用している人の役目だと思う。

委員 全国公民館研究集会では、なぜ池上彰氏が講演するのかと思った。私にとっては、鳥取県益田市の「子どもたちは地域社会に育てられる」が感動的だった。結局のところ、コミュニティが一番大切だと思う。そのコミュニティの大事な部分が、子どもの育て方だと思う。公民館は、子どもに関する事業において、もっと学校と連携していいと思う。

委員 池上彰氏の「民主主義と公民館運動」は、池上彰氏らしく世界的視野で話しが始まって、民主主義の原点や民主主義の弱点について話があり、「公民館は民主主義の学校である」と話しを締めくくった。その通りだと思った。シンポジウムについては、那覇の若狭公民館が公民館の無い地域に、出張で「パーラー公民館」として高齢者などが集まって語れる場所になっている。日本家屋には縁側があり、腰を下ろして地域の人と談笑ができたが、今は高い塀に囲まれた閉鎖的な建物が一般的になっている。このような空き地があれば「パーラー公民館」のようなコミュニティづくりも大変参考になると思った。

委員 自主研修会について、講座の内容も大事だが、まずは公民館に来てもらう、公民館を知ってもらうことが大事である、という意見があった。チラシなどのPRが大事だと思った。また、自主研修会に参加していたのは、60歳以上の男性が多く、健康に関する話が多かった。公民館利用者や市民全体の年齢層を考えると、若い人を呼ぶ講座も大事だが、健康などをテーマとした熟年層向けの講座も大事だと思った。

委員 全国公民館研究集会に参加して、インターネットでつないだ3つの例を見て、横のつながりも大事だが、多世代の交流というのは大きいと思った。公民館として、場の設定や多世代の橋渡しの役割もこれからは重要になっていくと思った。

委員 全国公民館研究集会に参加して、池上彰氏がどのように公民館論とつなげるのかと思っていたが、最後に公民館で活動していること自体が民主主義の基本原則である、と思った。シンポジウムで高校生が言った「公民館活動をどうしたらいいか」は、小平市でも高校生の利用がほとんど無いことから、高校生を巻き込んでできるようなまったりはどうか。沖縄の出張公民館は、ユニークだと思った。

会長 全国公民館研究集会は、池上彰氏の記念講演ということもあり、1,400名が参加した。シンポジウムでは、北海道の高校生の取組の中で、公民館は必要なのかというところ

から話し合い、最終的には地域の活性化には公民館が必要である、との考えでまとまった。

島根県益田市の事例では、子ども達が地域社会の中で育てられ、故郷を捨てない教育が公民館の中での活動となっているという考え方に感動した。

沖縄県の事例では、公民館が無いところでもパラソル1つで、そこに人々が集まって学び、楽しむコミュニティの場所となっている。公民館が無くても人は集まってくる、企画する力は素晴らしいと思った。

自主研修会のテーマは、「魅力ある公民館講座とは何か」についてだった。主な意見として、講座にはっきりとした到達点があるということ。例えば、ボランティア講座は、講座後に精力的なボランティア活動ができ、地域のコミュニティづくりにつながる。地域防災については、近くの公民館と同時開催すれば、地域と地域のつながりができるという意見が出た。また、短期間の講座が多くてサークル化が難しいとの話から、もっと長期間の講座があってもいいとの意見も出ていた。事業企画委員会が発足し、講座を企画する段階で地域の連携が図られている。まずは公民館を知ってもらうことから始め、新しい講座で、種蒔きをする企画があるといいとの意見も出ていた。

6. その他

会 長 平成31年2月19日(火) 予定の公民館運営審議会自主研修会について、前回の提言で新たに検討をするものとして「九館会との意見交換会を開催する」とあった。2月の研修会で連絡協議会及び事業企画委員会との意見交換会を開催したいと考えているがどうか。

委 員 連絡協議会に入っていない館はどうするのか。

会 長 オブザーバーでもいいので声掛けはしたい。

委 員 是非、お願いしたい。

会 長 利用者からの問い合わせとして、部屋の取消届について、なぜ、公共施設予約システム(パソコン)や電話で取消し処理ができないのか。

事 務 局 公民館は社会教育団体のための施設であり、各団体においても計画的に日程を定めて運営しているとの認識から、取消しまたは変更については、頻度の低いものと想定している。現状の公共施設予約システムでは、公民館の承認後については、利用者側からの予約の変更・取消しが処理できない。これは、利用者側から、システム上での安易な部屋の予約、取消しが頻繁に行われると、システム利用者全体に支障をきたす恐

れがあるためである。

また、電話での取消しについては、以前、取消した団体の会員全員に情報が伝わって
いなかったため、トラブルとなったことがあり、書面で届け出ていただくことにして
いる。

次回は、平成31年1月22日（火）午後2時～ 小川西町公民館にて開催する。